

# 会派の主張

本会議の  
質問など

三面から六面の内容は  
各会派が責任をもって  
掲載しています。

## 自由民主党

代表質問 木村 芳浩  
個人質問 川口 泰弘

**新型コロナウイルス接種に向けて市長の強いメッセージを発信せよ！**  
**「コロナ禍の今こそ、子どもの未来を育む新しい教育を！」**

—新型コロナウイルスの  
ワクチン接種—

問 本市では個別接種と集団接種を併用したワクチン接種を進めていく計画であり、個別接種は、かかりつけ医など20か所以上の診療所等で御協力いただける運びとなっている。一方、集団接種は、四条図書館2階、

花園ラグビー場、ヴェル・ノール布施、市役所1階多目的ホールの4か所が会場となり、その会場に医師会や薬剤師会の御協力のもと医療従事者の派遣も決まるなど着実に接種に向けて準備が進められている。しかしながら、市民の方々からは、「副反応はないのか、短期間でつくられたワクチンだから心配だ、いつ接種できるのか」といった御意見を多く伺っている。市民が安心して接種できるようにするには、その意義、今後のスケジュール、副反応等の情報提供について、市長自らが市民に向けて強いメッセージを発信するべきだと思



早期接種が望まれるワクチン（イメージ図）

市長 4月分のワクチン供給量は非常に

少量であり、混乱を避けるため、高齢者施設の入所者を対象に接種を開始することが合理的である。それ以外の高齢者への接種は、ワクチンの安定した供給のめどが立ったところで開始したい。コロナ禍を脱却するための最大の手段がワクチン接種と捉え、準備を進める。

—市が目指す教育の将来—  
問 コロナ禍により学習を保障していくためのオンラインによる様々な教育活動が行われる中、政府主導によるGIGAスクール構想に基づき、ICT環境の整備が一気に加速されることになった。その結果、今年度中に全ての学校で1人1台の学習用タブレットが配置されることとなり、令和3年度からは本格的に活用が始まるなど、我が国の教育の在り方が根本的に見直されていると言っても過言

ではない。そこでお聞きするが、東大阪市の子供たちは未来の希望である。教育の在り方が大きな転換点に立つ今こそ、未来の社会に生きていく子供たちへどのような教育を進めていこうとされているのか。

教育長 未来に生きる子供たちに最も必要な能力は、受動的に教えられたことを学ぶことを超えて、あらゆる場面を通して自ら学んでいく力であると考えている。そのために新しいICT環境を最大限に生かして、たくましく生きていく力を育む教育を進めてまいりたい。

—令和3年度予算編成—  
問 歳入の根幹である市税収入は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響などによる個人所得の減少や、企業収益の悪化などに伴う個人、法人市民税の減少など

により、前年度より48億2400万円減となっている。収支不足については、47億2000万円の財政調整基金を取り崩さなければ予算を組めない非常に厳しい財政状況である。市内経済や市税収入の回復には相当の期間を要すると想定されることから、今後数年にわたって厳しい財政運営を迫られることになる。今後、ポストコロナという新たな日常を見据え、既成概念や前例にとらわれず、環境の変化を取り入れた施策を展開していかなくてはならない中で、こういった観点で予算編成を行われたのか。

## 公明党

代表質問 菱田 英継  
個人質問 吉田 聖子  
個人質問 松尾 武

**ワクチン接種事業を円滑・安全に進めよ！**  
**子育て支援は未来への投資／教育環境の充実で、児童生徒の学びを応援！**

—ワクチン接種事業への  
覚悟について—

問 ワクチン接種については、今、多くの方々の関心

事であり、最優先課題である。コロナを収束させることができるか否か、国を挙げての大事業であり、国際

社会的な最優先の課題でもある。かつてない規模の大事業を実施するに当たり、市

（次頁につづく）

和3年度に始まる第3次総合計画に掲げる重点施策にも積極的に財源を配分した。—買い物・外出支援施策—  
問 本市初のお買い物バス導入に携わった経験から、かねてより社会的、地域的ニーズに合った交通手段の確保について要望を重ねてきた。本定例会で実験的予算が上程されており、今後の取り組みには、地域との協働、連携が必要不可欠である。本市にとって最適な交通手段の在り方と、今後の取り組みについて示せ。  
副技監 現在、大規模なインフラ投資が必要なく、市街地の全域でサービスを受けることが可能なタクシーを活用した取り組みの検討を進めている。地域内にタクシー乗り場を設置するなど、地域の声に基づいた利用しやすい地域公共交通の仕組みづくりを進めていく。